

令和元年度中野区学力にかかわる調査の結果について

1 調査の趣旨

- 各学校において、自校の児童・生徒一人ひとりの学習状況を踏まえて、教育課程や指導の改善・充実を図る。
- 調査の結果を基に、児童・生徒自身が学習上の課題を認識し、その後の学習に役立てる。
- 各教科の目標や内容に照らした学習の実施状況を把握し、区内小・中学校における教育課程の実施状況についての課題を明らかにして教育委員会の施策及び事業に生かす。

2 調査の実施概要

- (1) 対象学年及び教科 ※ 調査範囲は前年度の学習範囲

学年	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
対象人数(人)	1,602	1,565	1,634	1,502	1,478	1,017	948	970
国語	○	○	○	○	○	○	○	○
社会					○	○	○	○
算数・数学	○	○	○	○	○	○	○	○
理科					○	○	○	○
英語							○	○

- (2) 実施方法 ペーパーテスト形式による調査
 (3) 実施時期 小学校：平成31年4月9日～12日の中で1日 中学校：平成31年4月12日

3 調査の方法・内容

- (1) 本調査では、学習指導要領の目標、内容の学習状況を把握するため、教科の観点ごとに問題を作成した。
- (2) 出題した学習内容や問題の形式、難易度等を考慮し、「おおむね満足である状況」を示す数値（目標値）をあらかじめ目標として設置した。この目標値に到達した児童・生徒の割合（通過率）を基に、学習状況の把握に努めた。
 ※本調査では、通過率が70%であれば、区内の70%の児童・生徒が、「おおむね満足できる状況」にあることを示しており、全ての教科の各観点の通過率を70%以上にするを目標としている。

4 調査結果の概要

- (1) 小学校・中学校ともに、全学年・全教科の平均正答率は、目標値と同程度もしくは目標値を上回っていた。
- (2) 通過率が70%以上の項目は、全86項目中48項目で、昨年度、一昨年度に比べ達成した項目数が減少した。教科ごとに見ると、国語は32項目中22項目（昨年度は23項目）、算数・数学は24項目中20項目（昨年度22項目）の達成となっている。一方、英語は6項目中3項目（昨年度は6項目）となり、中学2年生は、全項目通過率が70%に届かなかった。

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
項目数(全86項目)	54	57	48
項目数の割合(%)	62.8	66.3	55.8

(3) 課題

- ①全ての教科において、いくつかの資料を比べたり関連付けたりする内容を記述する問題や、事象や実験・観察の結果を基に考察し自分の言葉で表現したり説明したりする問題で正答率が低く、無解答率も高いという傾向にある。理解するだけでなく、理解した内容から更に思考を深め、表現する力の育成が引き続き、課題である。
- ②理科・社会については学習上重要な語句や用語の意味の理解が例年に引き続き課題が見られた。用語をただ暗記するだけでなく、自分の言葉で説明できる力を付けることが課題である。

5 今後の対応

- (1) 本調査は全ての項目で通過率70%を達成することを目標としている。「新しい中野をつくる10か年計画」（平成28年4月、中野区）では、経過目標として以下の成果指標と目標値を示した。

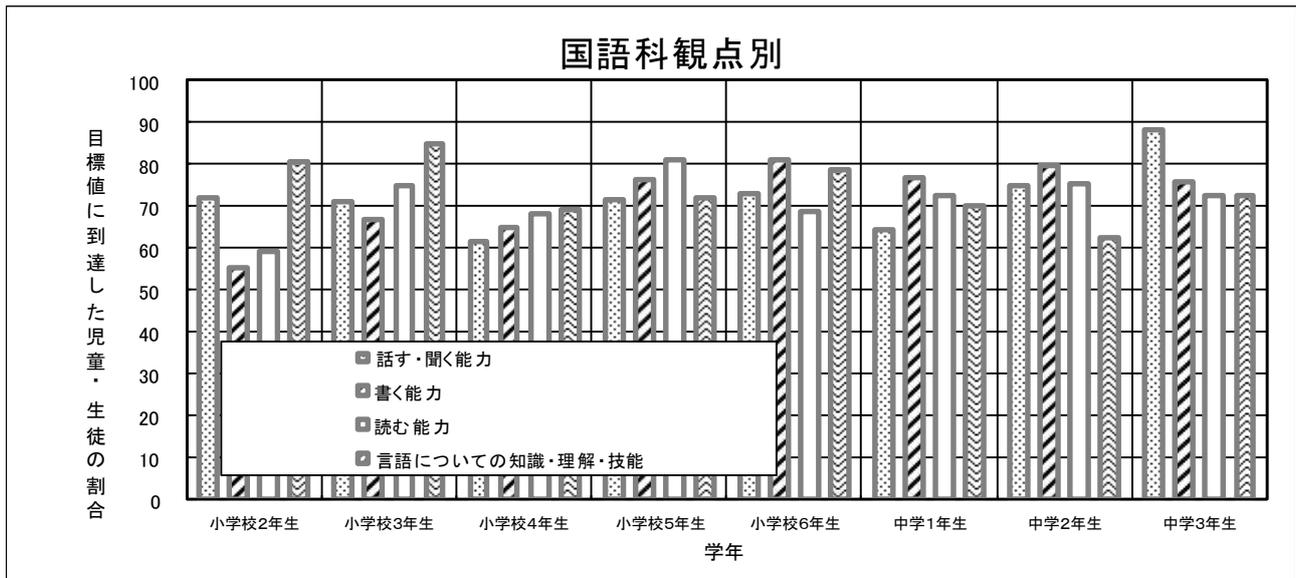
年 度	平成26年度実績	平成32（令和2）年度	平成37（令和7）年度
項目数(全86項目)	38	61	69
項目数の割合(%)	44.2	70	80

今後、達成できていない項目について各学校独自に詳細な分析を行い、具体的な取組を検討していく。

- (2) 区全体の調査結果は教育委員会事務局で分析し、中野区教育委員会ホームページ上で公開する。なお、小・中学校に共通する課題についても検討し、その解決策を研修会等で提示する。
- (3) 各学校においては自校の結果についての分析を行い、それに基づいた「授業改善プラン」を作成する。授業改善の視点として、任期付短時間勤務教員及びALTの充実した活用や、ICT機器やデジタル教材の効果的な活用が挙げられる。併せて、分析結果等を、各学校のホームページ等にて公開する。特に、通過率が70%に届かなかった観点については、具体的な取組を講じていく。
- (4) 教員研修、特に、若手教員育成研修の充実に努め、教員の授業力の向上を図る。

6 調査結果

(1) 国語



【調査結果の分析】⇒「国語を正確に理解し、人との関わりの中で適切に表現する資質・能力の育成」

◆結果

- ・どの観点も、目標値に到達した児童・生徒が70%に達している学年が多く見られ、小学校5年生、中学校3年生では、全ての観点で目標値に達した児童・生徒の割合が70%を超えた。
- ・領域別達成率で見ると、小学校6年生、中学校3年生はどの領域も70%以上の達成率となっている。一方、小学校2年生「書くこと」の42.3%、4年生「話すこと・聞くこと」の45.9%、中学校1年生「話すこと・聞くこと」の52.9%が、他領域と比べて低い達成率となっている。

◆課題

- ・国語科の学習内容と、他教科等の中で関連のある学習内容や言語活動を取り上げた単元の設定を工夫する必要がある。
- ・「話すこと・聞くこと」については、話の内容の中心や意図は何なのかについて気付かせるとともに、自分と相手の考え方の共通点や相違点に気付かせ、自分の考えをまとめられるようにすることが必要である。
- ・「書くこと」については、相手意識、目的意識を明確にし、経験や想像したことの中から書くことを決めて文章を書いたり、自分の考えが明確になるように文章を書いたりすることについて、低学年から体験させていく必要がある。
- ・「読むこと」については、事柄の順序や文章構成、書き手の意図を考えながら内容を読み取る力を身に付けさせ、互いの考えを認め合ったり、比較して違いに気付いたりすることを通して、自分の考えを広げていくことが必要である。

◆課題への対応

- ・各教科等の学習や子どもたちの日常生活での経験などと関連させ、一人ひとりにとって「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の必要感を実感できるような学習活動を意図的に展開する。
- ・話し手が伝えたいことと自分に必要な情報の両面を意識しながら話を聞く学習活動を取り入れる。その際、ICT機器やICT教材を活用して児童・生徒の考えや伝え合う視点を可視化したり、自らの活動を振り返ったりすることで、伝え合う力をより効果的に高めることができるようにする。
- ・学級新聞、小冊子、リーフレット及び日記など、多様な書く活動を取り入れ、他教科や生活の中で学んだことを生かして書くことができるようにする。また、複数の本や新聞、ICT機器を活用した資料等を用いることで、児童・生徒が学習に興味をもち、より主体的に学べるようにする。
- ・話や文章の中で使いこなせる語句を増やすとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化などへの理解を通して、語句の意味や使い方に対する認識を深め、語彙の質を高められるよう語彙指導の改善・充実を図る。

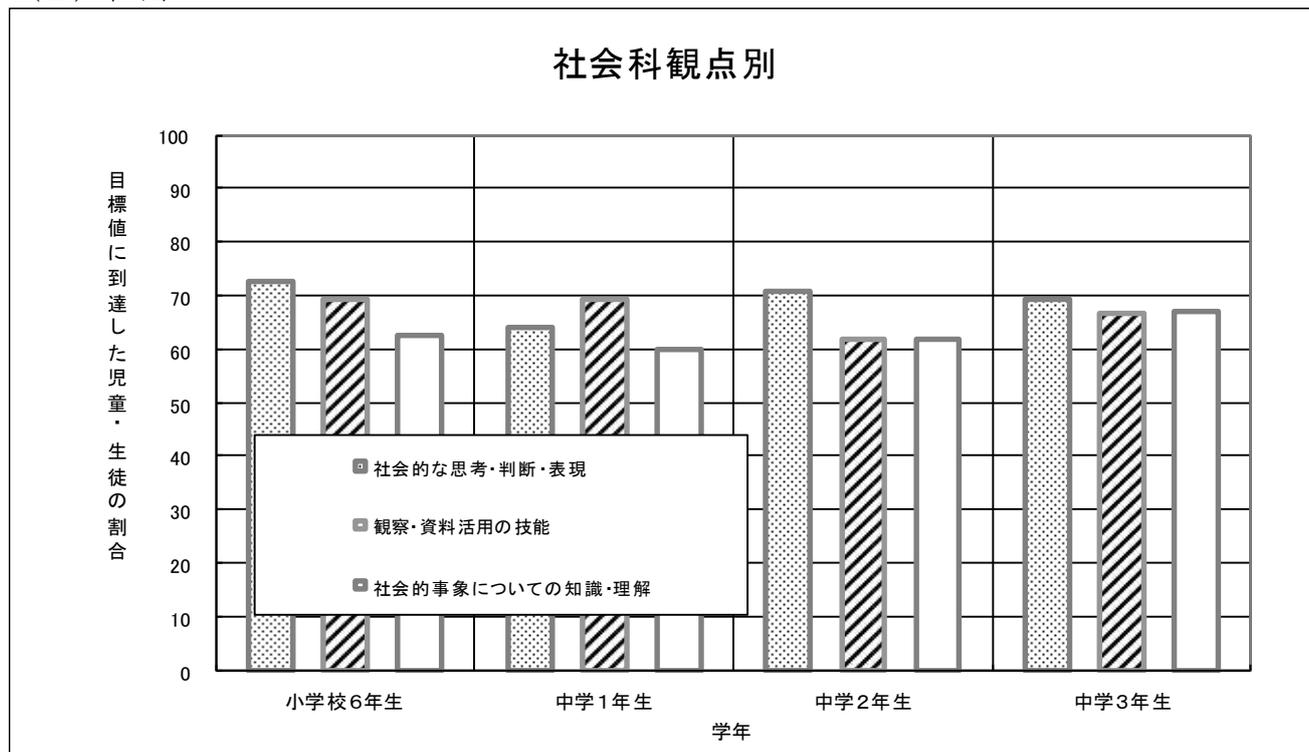
【参考】

年度	話す・聞く力			書く力			読む力			言語についての知識・理解・技能			
	H29	H30	H31	H29	H30	H31	H29	H30	H31	H29	H30	H31	
小学校	2年生	73.2	72.2	72.0	63.6	51.9	55.6	61.0	59.5	59.4	81.4	80.5	80.8
	3年生	76.4	74.0	71.1	72.9	68.1	66.9	77.2	75.9	74.9	85.0	83.3	84.7
	4年生	63.2	63.2	61.7	69.0	64.3	64.7	74.3	70.7	68.4	74.9	70.0	69.4
	5年生	72.8	74.8	71.5	81.2	76.0	76.3	85.0	84.7	81.2	73.1	74.7	72.2
	6年生	73.6	73.8	73.1	83.9	83.9	81.2	65.6	70.0	68.5	74.7	78.4	79.0
中学校	1年生	68.1	66.5	64.4	73.5	75.9	77.0	72.3	69.9	72.4	71.4	67.5	70.3
	2年生	81.5	81.4	75.0	79.3	78.7	79.5	78.2	77.9	75.2	66.8	64.7	62.5
	3年生	87.2	87.0	88.4	78.7	79.4	76.0	71.9	74.7	72.5	76.6	74.6	72.6

※ 太字・斜体は、平成30年度を上回ったものを示している。

※ 網掛けの数値は目標値に到達した児童・生徒が70%以上の項目を示している。

(2) 社会



【調査結果の分析】⇒「資料を通して情報を適切に調べまとめる力、社会的事象の意味を多角的に考え、表現する力の育成」

◆結果

- ・小学校の領域別達成率では、「情報産業や情報化社会」が80%以上、「国土の自然などの様子」が70%以上だった。一方で、「農業や水産業」「工業生産」の領域については、どちらも65%未満だった。
- ・中学校の領域別達成率では、「我が国の政治」「世界の中の日本の役割」「世界の地域構成」「世界各地の人々の生活と環境」が75%を超えている。一方で、「日本の地域構成」53.2%、「近代の日本と世界」51.2%、「我が国の農業や水産業」が44%だった。
- ・過去3年間の小・中学校全学年で「社会的事象についての知識・理解」の観点別達成率が70%未満だった。

◆課題

- ・小学校では、領域別達成率の偏りが大きい。特に、中野区において身近に見学したり、体験したりする機会が少ない「日本の農業」や「自動車をつくる工業」に関わる問題の正答率が低い。
- ・中学校では、複数の資料を読み取ったり、読み取った事象間の関連性を考えたりする問題、資料を読み取ったことを基に、自分なりに解釈したりする問題の正答率が低い。
- ・小・中学校共に、重要語句に関する知識・理解が不十分である。

◆課題への対応

- ・小学校では、実際に見学・体験をする機会が少ない作物の収穫工程や工場での製作工程を、授業においてどのように補うかといった視点で、ICT機器を活用して写真や動画等を活用する。また、社会科見学の内容を充実させる。
- ・中学生対象の学習に関するアンケート結果によると、「地域や国土の良さを大切にしたいと思う」に全学年80%以上、「調べ学習のときなどに、図書館や、インターネットを利用して資料を集め活用している」に全学年70%以上の生徒が肯定的な回答をしている。地域や国土に対する高い意欲を生かすとともに、資料を集めることだけに終始せず、その資料から読み取ったり、考えたりする学習活動を、授業の中に意図的に多く取り入れる。
- ・社会的事象についての知識・理解を確実に深めていくために、毎時間の導入段階で重要語句の復習時間を確保する等、自分の考えを表現するために必要な基礎的・基本的な語句を定着させるための工夫をする。

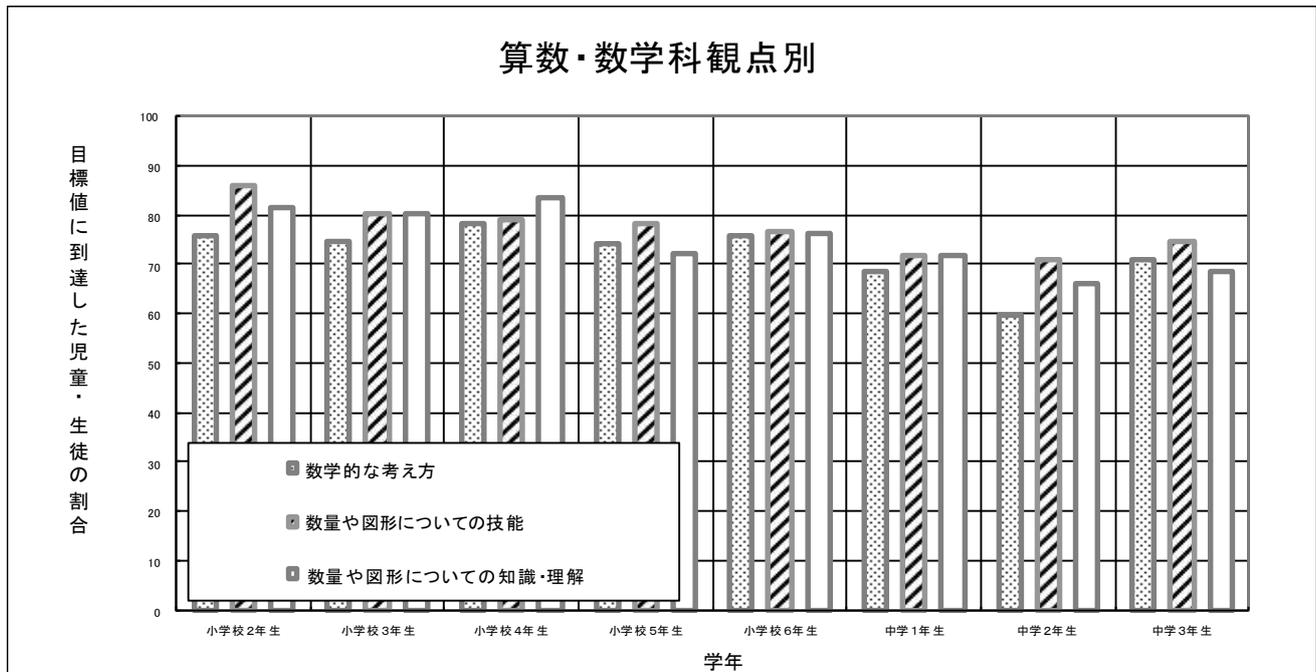
【参考】

	年度	社会的な思考・判断・表現			観察・資料活用の技能			社会的事象についての知識・理解		
		H29	H30	H31	H29	H30	H31	H29	H30	H31
小	6年生	72.5	74.1	72.7	70.2	72.8	69.4	62.9	64.6	62.4
中	1年生	64.0	61.9	64.0	70.3	69.1	69.2	61.6	58.6	60.1
学 校	2年生	73.2	74.4	70.8	62.6	64.8	61.7	60.7	60.9	61.7
	3年生	74.5	69.5	69.4	69.2	67.0	66.6	69.5	68.1	66.9

※ 太字・斜体は、平成30年度を上回ったものを示している。

※ 網掛けの数値は目標値に到達した児童・生徒が70%以上の項目を示している。

(3) 算数・数学



【調査結果の分析】⇒「基礎的な内容の定着と自分の考えを数学的な表現を用いて説明する資質・能力の育成」

◆結果

- ・小学校では、各観点とも目標値に到達した児童が70%以上であった。領域別では、70%を下回る領域が見られた（2年図形＝2・4・5年、量と測定＝5年、数量関係＝6年）。平均正答率は6年の「数量関係」が特に低かった。
- ・中学校では、全学年とも目標値に到達した生徒が70%以上であった観点は「技能」のみであった。領域別では、2・3年とも「関数」の達成率が70%を下回った。平均正答率は2年の「資料の活用」が低く、昨年度から更に低下した。

◆課題

- ・回答形式が記述の問題の無回答率が、小学校では20%前後であった。中学校では30%に達した問題もあった。自分の考えを数学的な表現を使って説明する力を付ける必要がある。
- ・中学1年で学習する「資料の活用」の基礎的な内容（新学習指導要領では小学校での取り扱いとなる内容）が定着していない。用語の意味等の基礎的知識の定着に加え、データを読み取る力を付ける必要がある。

◆課題への対応

- ・全小・中学校で実施している習熟度別少人数指導において、学習集団の編成を適切に行い、児童・生徒一人ひとりの課題を把握し、個に応じた指導を充実することで、児童・生徒が自ら問題を解決しようとする意欲や能力を高める。
- ・根拠を基にして筋道を立てて考えたことを数学的な表現を用いて説明・記述したり、話し合いをしたりしながら、問題を解決していく数学的活動を授業で実践することにより、「数学的な考え方」「数学的な見方や考え方」を深める。
- ・ICT機器を活用し、表やグラフなどのデータを分析したり、自分でグラフを作成する活動を取り入れた授業を行うことで、統計的な見方を鍛えるとともに、積極的にICT機器を利用して分析をしようとする態度を養う。

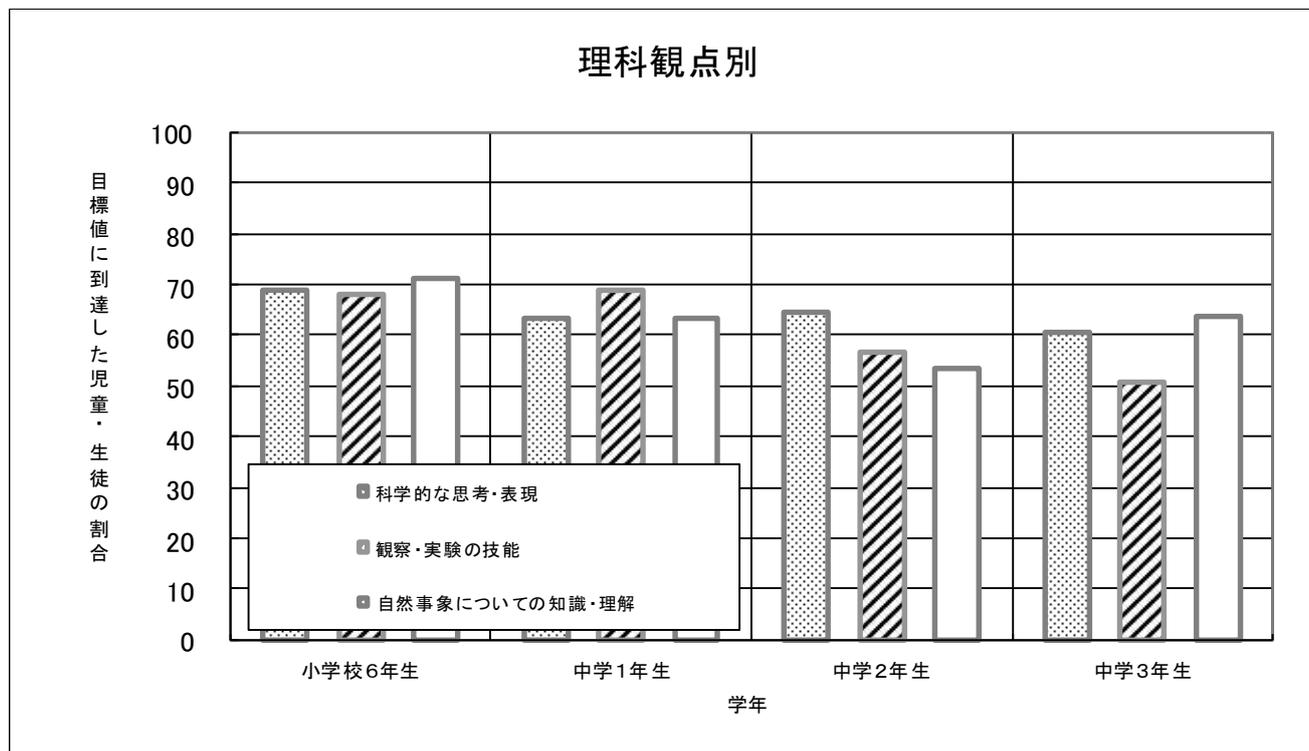
【参考】

	年度	数学的な考え方			数量や図形についての技能			数量や図形についての知識・理解		
		H29	H30	H31	H29	H30	H31	H29	H30	H31
小学校	2年生	74.2	75.9	75.7	88.4	86.6	86.0	83.2	83.3	81.6
	3年生	77.0	74.7	74.5	82.4	82.0	80.3	81.2	81.6	80.1
	4年生	78.6	78.7	78.2	82.8	79.6	79.1	85.7	85.3	83.4
	5年生	77.0	77.3	74.0	81.9	80.9	78.1	75.7	75.5	72.2
	6年生	75.6	76.3	75.9	75.5	76.8	76.7	74.7	77.3	76.4
中学校	1年生	69.6	68.5	68.4	74.7	70.6	71.8	66.0	70.0	72.0
	2年生	63.7	63.7	59.9	73.1	77.3	71.0	68.7	72.4	66.2
	3年生	67.6	70.5	71.2	72.7	75.3	74.7	69.2	70.2	68.4

※ 太字・斜体は、平成30年度を上回ったものを示している。

※ 網掛けの数値は目標値に到達した児童・生徒が70%以上の項目を示している。

(4) 理科



【調査結果の分析】⇒「観察・実験に主体的に取り組み、深く考える授業づくり」

◆結果

- ・小学校では、【自然事象についての知識・理解】の観点で達成率が7割を上回った。
- ・中学校では9項目中5項目が昨年度より上昇したが、達成率が7割を上回った項目は無かった。

◆課題

- ・小学校では、領域別では【物質・エネルギー領域】が7割を下回っていた。具体的には、ものの溶け方、電流のはたらきの単元で、実験結果やグラフを基に推測したり、活用したりすることに課題が見られた。
- ・中学校では、領域別では第2学年では【地球領域】において科学的語句を用いて説明する問題、第3学年では【粒子領域】において実験結果をグラフ化したり、日常生活に活用して説明したりすることに課題が見られた。

小学校、中学校共に観察・実験の結果を整理し、考察する学習活動や、科学的語句を使用して考えたり説明したりすることが課題である。

◆課題への対応

(1) 観察・実験の結果を整理し、考察する学習活動

考察の場面での学習活動を充実させるための前提として、精度の高い観察・実験が求められる。実験結果が正しくない場合、十分な考察ができない。そのためには実験器具を正しく児童・生徒が使用できるように指導を行う。そして、結果を整理し、考察する学習活動では、実験結果を児童・生徒自身が、表計算ソフトを用いて実験結果をグラフに表したり、プレゼンテーションソフトを用いて自分の考えを説明・交流したりする活動をICT機器を活用して行うなどの工夫が求められる。

(2) 科学的語句を使用して考える学習活動

科学的語句をキーワードとして用いて、実験結果と結び付けて、考えたり説明したりする活動を行うことで語句も定着し、考察を深めることができる。また、振り返りの場面では、日常生活や社会において、どのように関連しているか考えさせることも重要である。

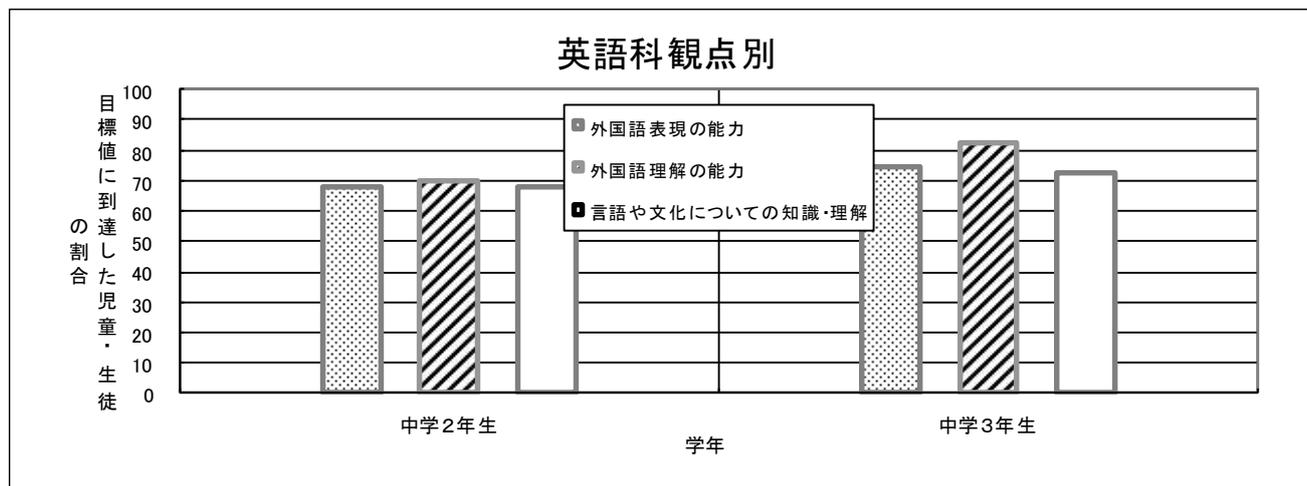
【参考】

		科学的な思考・表現			観察・実験の技能			自然事象についての知識・理解		
年度		H29	H30	H31	H29	H30	H31	H29	H30	H31
小	6年生	65.0	70.7	68.7	63.9	70.6	67.9	68.1	74.4	71.4
中学校	1年生	63.4	62.3	63.5	70.2	67.2	68.7	62.3	61.7	63.3
	2年生	66.3	62.4	64.5	59.1	62.6	56.5	59.1	53.1	53.4
	3年生	62.9	60.8	60.6	57.3	55.5	50.8	67.1	66.8	63.6

※ 太字・斜体は、平成30年度を上回ったものを示している。

※ 網掛けの数値は目標値に到達した児童・生徒が70%以上の項目を示している。

(5) 英語



【調査結果の分析】⇒「技能統合型言語活動の更なる充実による、実際の場面等に応じた表現力の育成」

◆結果

・観点別達成率

2年生は各観点とも達成率が70.0%を下回っており、全観点で課題がある。

3年生は各観点とも70%を上回っており、特に「外国語理解の能力」については同一母集団経年比7.1%増である。

・領域別達成率

「聞くこと」第2学年66.8%、第3学年88.5%（同一母集団経年比12.8%増）

「読むこと」第2学年63.7%、第3学年75.0%（同一母集団経年比7.5%増）

「書くこと」第2学年67.3%、第3学年77.0%（同一母集団経年比4.0%増）

第2学年については、各領域とも達成率が70.0%を下回っており、全領域で課題がある。

第3学年については、同一母集団の経年比較において、各領域で大きな上昇が見られることから、言語活動を中心に据えた授業の成果が出ていると考えられる。

・2年生では、「言語や文化についての知識・理解」の観点において、「語法・語形を理解することができる（一般動詞過去の疑問文）」及び「単語を正しく書く」という問題の正答率が低かった。

・3年生でも同じく「言語や文化についての知識・理解」の観点において、「語形・語法を理解する（動名詞の形）」及び「単語を正しく書く」という問題の正答率が低かった。

◆課題

・「単語を正しく書く」等の基礎的な学習内容の定着を図っていく必要がある。

・生徒一人ひとりの習熟に応じた指導を行う必要がある。

◆課題への対応

・日々の授業において、パターンプラクティスやコミュニケーション活動を豊富に取り入れ、基礎的な学習内容の定着を図るとともに、重要表現を日常的に活用させる。

・具体的な場面や状況に合った適切な表現を考えたり、話したりする言語活動の充実に加えて、英語を用いて書く学習活動を意図的・計画的に取り入れる。

・小学校の外国語及び外国語活動と中学校の英語との連携を図り、小・中学校の教員同士が共通理解の基に指導を行うことで、相乗効果を生み出せるようにする。

・英語による言語活動を行うことを中心に据えた授業を引き続き実施するとともに、教師やALTの使用する英語が生徒にとって効果的なインプットとなるよう、教師やALTの英語使用の場면을継続的に工夫する。

【参考】

年度		外国語表現の能力			外国語理解の能力			言語や文化についての知識・理解		
		H29	H30	H31	H29	H30	H31	H29	H30	H31
中学校	2年生	72.8	74.4	67.7	74.3	75.4	69.8	72.4	73.7	67.7
	3年生	75.1	75.2	74.7	78.9	82.3	82.5	68.9	73.8	72.5

※ 太字・斜体は、平成30年度を上回ったものを示している。

※ 網掛けの数値は目標値に到達した児童・生徒が70%以上の項目を示している。